

JAXA へりの騒音計測など実験 今年初災害時の救助で活用



【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)で、実験用ヘリコプター「MUPALIE(ミューパル・イブシロン)」

を使用した各種実験を進めている。災害発生時の救助活動で、同ヘリを有効活用するのが狙い。25日午前、同実験場では今年1回目のフライトを行った。

実験グループはJAXA研究開発本部飛行技術研究センターを中心とした約10人。今回取り組んでいるのは①騒音計測②無線LANによる通信実験③有人機・無人機連携システムでの機能確認の3つで、いずれも地震などの大規模災害発生時に役立つ。同ヘリは三菱式MH2000A型で全長12.2m。この日午前には同実験場の上空300～1800mを段階的に飛行し、地上で騒音を測定した。また、ヘリと地上で、家庭でも広く用いられている無線LANの通信性能を計測した。

同センターの奥野善則ヘリコプタセクションリーダーは「いざという時に(ヘリコプターを)安全に活用できるように実験を進めていきたい」と話している。同ヘリは2000年に開発され、大樹でもこれまでに

5、6回ほど飛行実験を繰り返してきた。今回は29日まで計5回の飛行実験を予定している。

(佐藤圭史)